

授業科目名	科学技術と社会			担当教員名	原 一樹	
科目区分		単位	配当年次	実施時期	曜日・時限	形態
教養教育科目	選択	2	1~4	春・秋学期	火・4	講義
授業概要						
<p>我々は様々な科学技術の恩恵を受けつつ、生活しています。特に情報・通信技術と交通・移動技術は、それが無ければ我々の日常が全く異なるものになってしまうほどに、我々の生活を支えているものです。この講義では、それらの技術が我々人間にとって持つ価値や意味について、小グループでの調査報告作業などを導入しつつ、あらためて考えていきます。</p>						
到達目標						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報・通信技術、交通・移動技術の歴史や意義について基礎的知識と自分なりの見解を形成する。 2. 各テーマについて小グループに分かれ、チームで調査・資料作成・報告する訓練を積む。 3. 特定の技術について文献・資料調査を行い、一定以上の長さのレポート作成ができるようになる。 						
授業方法(展開)						
<p>基本的には講義形式で進めますが、上記の目標に到達する為に、以下の方法を採用します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業の最後に、授業内容についての質問・意見を収集。(次回の講義にそれらを反映。) 2. 適宜、小グループに分かれ、各技術について調査・資料作成・報告作業を行う。 3. セメスターの最後に、講義で扱う内容を踏まえつつ、<u>原稿用紙 10 枚以上</u>のレポートを作成すること。 						
関連科目・知識・スキル						
「情報リテラシー」、「マルチメディア演習」、「現代日本社会事情」						
成績評価						
受講態度 30%、グループ作業等貢献度 30%、セメスター末レポート 40%						
教科書・参考書など						
特に指定しませんが、授業初回にこの講義の参考文献の一覧表を配布します。						
履修上の注意事項						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義で紹介する文献や映像メディアについては、積極的に触れてみてほしいと思います。 ・ 講義中の質問・意見は歓迎しますが、他の受講生の妨げとなる行為（私語・携帯電話の使用等）は当然、禁止です。 ・ グループでの調査報告作業の比重が小さくない点に注意して下さい。積極的に調査し報告することが必要となります。 						

授業の柱(単元)と授業スケジュール

授業の柱とスケジュールはおおよそ以下の通りです。受講生の興味関心や、講師と受講生、また受講生同士の意見のやり取りを踏まえ、授業の進行速度や取り扱う内容には変更が予想されます。

第1回 インTRODクション（講義の狙い・進め方・成績評価等についての説明。受講生の持つ知識の確認。）

第2回～第8回 情報・通信技術と社会との関わり

- * 活字メディアと「公共性」
- * ラジオ・テレビのもたらしたもの
- * 「電話」から「ケータイ」へ
- * インターネット文化の持つ可能性

第9回～14回 交通・移動技術と社会との関わり

- * 鉄道敷設と国民国家
- * 自動車文化の意味
- * 飛行機の100年史
- * 観光地・観光活動と交通との関わり

第15回 全体のまとめ

学生への一言

私達人間は、科学技術を開発・利用する存在であると同時に、逆に自らが作り出した技術によって大きな変化をこうむる存在です。携帯電話やインターネットが皆さんに対して持つ大きな影響力を考えてみれば、理解できるでしょう。科学技術の持つ価値や意義について理解しておくことは、将来いかなる職業に就くとしても必要不可欠な素養です。また、小グループで役割を分担し調査報告作業の訓練を積むことも基礎的能力として極めて重要なことです。積極的な参加を期待します。